

講義コード	1051280000
講義名称	人権教育論B <春>
科目英文名	The study in education for human rights B
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	0EDU2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
大北 規句雄

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 行政職員として人権政策に関わってきた経験のある者が、その経験を活かして今日的な人権諸課題の概要や、問題解決に向けたアプローチ等の取組の紹介などを行う。	実務経験のある教員による授業② まちづくりコンサルティング会社の職員としての経験のある者が、その経験を活かして「地域共生社会」の取組概要やアプローチを紹介する。
------	----	------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	-----------------------------------------

講義・演習概要	人権とはどのような概念かを踏まえたうえで、現代社会に起こる様々な社会問題を人権概念から考察することを学ぶ。また、様々な人権課題を通じて見える差別の歴史や社会的役割を、他の差別問題の現実も踏まえながら理解すること。また、差別撤廃の様々な取組みや、人類が勝ち取ってきた「人権」の到達理念を、世界的な人権基準を参考に考察することを通じて、教職を目指す学生が、国際社会に通用する人権感覚を身につけることを授業のねらいとする。
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 排除・忌避意識の社会的・歴史的背景を説明することができる。</li> <li>2. 様々な人権課題や差別問題の歴史的経過や、社会性を説明することができる。</li> <li>3. 差別解消のための様々な努力から学び、国際的な人権の取り組みや、グローカリズムの概念を説明することができる。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、自分の意見をしっかりと論理的にまとめ、記述することができる。</li> </ol>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>（1）講義ガイダンス・オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①受講ルールの説明（受講にあたってのルールやマナーの説明）</li> <li>②授業計画（授業日程や全15講の内容説明）</li> <li>③評価基準の説明（単位取得について、評価方法の説明）</li> </ol> <p>（2）ワークショップ「世界が100人の村だったら（人権版）」</p> <p>授業に入るまでの学習リードとして、現代社会における様々な人権概要についてワークで学ぶ</p>
第2回	<p>国内における人権課題（Ⅰ）「障がい者問題」</p> <p>「障害者差別解消法」成立の背景と意義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①障がい者解放運動の歴史と「障害者差別解消法」が示した「差別の禁止」と「合理的配慮」</li> <li>②これまでの「医学モデル」から「社会モデル」への発展</li> <li>③ノーマライゼーションとは何か</li> </ol>
第3回	<p>国内における人権課題（Ⅱ）「民族差別問題」</p> <p>「ヘイトスピーチと表現の自由の狭間」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①これまでのヘイトスピーチの現実を学ぶ</li> <li>②差別の禁止（規制）と表現の自由の問題の論点</li> <li>③ヘイトスピーチ抑止法がめざした趣旨</li> </ol>
第4回	<p>国内における人権課題（Ⅲ）「女性差別問題」</p> <p>「ジェンダーギャップ指数が示すもの」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①女性差別の歴史的背景と男女共生社会へのアプローチ</li> <li>②ポジティブアクションの意味</li> </ol>

第5回	<p>国内における人権課題（Ⅳ）「性的マイノリティへの差別問題」 「性の多様化を検証する」</p> <p>①LGBTQなど性的マイノリティの人権がどのように変遷してきたか ②「パートナーシップ条例」など行政のアプローチを検証する。 ③国際的な動きを検証する。</p>
第6回	<p>国内に生ける人権問題（Ⅴ）「医療と差別」 「感染症と差別の歴史の検証」</p> <p>①ハンセン病問題を通して現代のコロナ差別や福祉の意味について考える。 ②日本型「絶対絶滅隔離政策」の意味 ③部落差別とハンセン病 ④なぜ「福祉」は一部の可哀そうな人の問題になったのか？</p>
第7回	<p>国内における人権課題（Ⅵ）「情報化と人権」 「インターネットと人権」</p> <p>①WEB上にあふれる差別差別問題を部落問題を中心に検証する。 ②情報流通プラットフォーム対処法（情プラ法）の制定の背景と意味 ③部落問題から見るカミングアウトとアウトティング問題 ④アルゴリズムとフィルターバブル</p>
第8回	<p>国内における人権課題（Ⅶ）「貧困問題」 「部落解放運動の取り組みから貧困を検証する」</p> <p>①子ども食堂や学習支援事業など地域で取り組まれている様々な貧困と向き合う活動をとおして貧困・格差問題を考える ②ふーどばんくOSAKAの取り組み ③地域の様々なNPO活動（人権のまちづくり運動）</p>
第9回	<p>国際的な人権課題（Ⅰ）「移民・難民問題」 「移民・難民の生まれる背景」</p> <p>①移民と難民の違いについて ②日本における移民・難民政策の課題についての検証。 ③国際的な動きと現状</p>
第10回	<p>国際的な人権課題（Ⅱ）「テロや民族紛争の背景」 「世界で起こるテロリズムや地域紛争」</p> <p>①中東での民族対立の背景（イギリスの3枚舌外交の残したもの） ②ヨーロッパの「宗教的対立」、 ③表現の自由と宗教や民族への尊厳の葛藤</p>
第11回	<p>国際的な人権課題（Ⅲ）「諸外国における差別問題」 「各地で生起している差別問題」</p> <p>①クルド人問題 ②ロヒンギャ問題 ③アメリカにおける人種差別問題 ④シンティ・ロマ問題など諸外国の差別問題を検証する。</p>
第12回	<p>新しい人権概念の創造にむけて（Ⅰ）「国際的な人権へのアプローチ検証」 「世界人権宣言の基本精神から見えるもの」</p> <p>①ノーベル平和賞や見る国際社会の人権の視座 ②世界人権宣言の意味するもの ③差別撤廃の5方策とは何か</p>
第13回	<p>新しい人権概念の創造にむけて（Ⅱ）「SDGsとグローバルコンパクト」 「国際的な人権の潮流を検証する」</p> <p>①国連人権委員会「ビジネスと人権の指導原則」 ②なぜ日本のマスメディアが問題になったのか ③同和対策事業の先進性を検証する ④グローバルコンパクトから続く国連の人権のアプローチ</p>
第14回	<p>新しい人権概念の創造にむけて（Ⅲ）「拡がる人権の概念」 「新たな人権文化を創造するために」</p> <p>①人権デューデリジェンスとは何か ②アンコンシャスバイアスとは ③「マイクロアグレッション」、「ポリティカル・コネクトレス」 ④新しい人権文化を創造するために。</p>
第15回	<p>課題設定のテストおよびまとめ</p>

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

レポート	65%
その他	

成績評価の方法（コメント）	<p>①最終試験において、到達目標に対応するテーマに関する論述問題出題する。授業での内容やオリジナリティなど自身の意見が論理的に述べられているかを重点に評価する。</p> <p>②毎回授業のふりかえりとして、授業内容が理解されているかを判断するための小レポートを実施する。</p> <p>③欠席が全授業の3分の1を超えると単位を認められないことがある。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	大北規句雄	隣保館「まちづくりの拠点として」	大学オンライン販売	978-4-7592-1029-3	解放出版社	
2.						授業時に「レジュメ」と参考資料を配布します

参考文献	大阪の部落解放運動「100年の歴史と展望」解放出版社
事前および事後学習の指示	事前学習：前回授業終了時に次回講義の課題と「キーワード」を指示するので、事前に調べておくこと（推定目安時間1時間） 事後学習：ミニレポート（推定目安時間1時間）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	差別、人権、偏見、排除、忌避、部落、感染症、地域経営、ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティ、ノーマライゼーション、ジェントリフィケーション、地域共生社会、まちづくり、SDGs

講義コード	1540130000
講義名称	産業心理学B <春>
科目英文名	Industrial Psychology B
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OPSY3400
単位数	2.0
時間割	春学期: 水曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
向井 有理子

授業形態	講義	グループワーク
------	----	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)	ディスカッション(話し合い)
	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)		

講義・演習概要	産業心理学は職場や組織における行動を科学的に明らかにする分野です。本講義では、組織運営や産業場面における人の動きにかかわる理論を取り上げ、実際の産業場面に対する心理学の可能性について説明する。
学習(到達)目標	①産業場面における人の行動を、産業・組織心理学の観点から説明できる。 ②産業場面の課題、組織における問題解決に対して、産業・組織心理学に基づいた提案ができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション: 産業・組織心理学の考え方と授業で取り上げる内容について
第2回	リーダーシップ①: リーダーシップの基礎, 特性論、行動論
第3回	リーダーシップ②: 状況論、認知論
第4回	リーダーシップ③: 関係論、変革論
第5回	現代的課題についてのグループワーク①: パワーハラスメント
第6回	ストレス①: ストレスの理論
第7回	ストレス②: 仕事とストレスの問題
第8回	ストレス③: 職場のメンタルヘルスケア
第9回	消費者行動①: 消費者行動の理論
第10回	消費者行動②: 広告の効果、販売のテクニク
第11回	消費者行動③: 消費者の選択と満足
第12回	ヒューマン・ファクター①: 安全とヒューマン・ファクター
第13回	ヒューマン・ファクター②: リスク・コミュニケーション
第14回	現代的問題についてのグループワーク②: 事故防止
第15回	総括試験及びまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	20%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	①最終日に総括課題として試験を実施します。 ②現代的問題に関してはワークのための準備課題と事後の報告課題をレポート課題として実施します。 ③その他、小テストや簡易ワークへの貢献を評価に含みます。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	田中健吾・高原龍二	産業・組織心理学 TOMORROW	大学オンライン 販売	978-4-8429-1793-1	八千代出版	

事前および事後学習の指示	授業内では教科書の全てについて説明することができないため、授業前や授業後に教科書を読んで理解を深めること。 身近な問題やニュースについて、学習した内容から考えて自分なりの意見が言えるように整理しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	リーダーシップ, ストレス, 消費者行動, ヒューマン・ファクター